

高等学校

平成26年度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

| | | |
|-----|-----------|----|
| I | 研究主題設定の理由 | 1 |
| II | 研究の視点 | 2 |
| III | 研究の仮説 | 2 |
| IV | 研究の方法 | 2 |
| V | 研究の内容 | 7 |
| VI | 研究の成果 | 23 |
| VII | 今後の課題 | 24 |

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 家庭部会 | よりよい生活を創造するための実践力を育む 指導と評価 |
|-------------|---------------------------------------|

I 研究主題設定の理由

学指導要領は、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより一層育むことを目指しており、「確かな学力」として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視している。

高等学校の共通教科「家庭」は、小学校家庭科における家族の一員としての視点、中学校技術・家庭（家庭分野）における自己の生活の自立を図る視点を踏まえ、家族・家庭についての理解、共に生きる生活観の育成、家庭生活の様々な事象の原理・原則についての科学的理解、理解したことを実際の生活の場で活用するための技術の習得、生活を総合的に認識し、適切に判断する意思決定能力、課題を解決する問題解決能力など、生涯を見通して主体的に生きる力を育成し、家庭や地域の生活を創造できるようにすることを目指している。

本年度の教育研究員高校部会の研究テーマは、「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」である。高校家庭部会では、高等学校家庭科における思考力・判断力・表現力について、以下のように捉えることとした。

思考力 自立に向けて、習得した基本的な知識・技術を活用したり応用したりする力

判断力 課題解決に向けて、適切な方法を取捨選択して判断し行動する力

表現力 課題解決のために、他者と情報を共有してよりよい改善策をまとめ、生活に生かそうとする力

授業を通して生徒の実態を見てみると、小・中学校段階で習得してきたはずの知識や技術の定着が十分ではなく、繰り返し義務教育段階の内容から指導しなければならない実態が見られる。よりよい家庭生活、学校生活や地域の生活を主体的に創造する実践的な態度を育成するという高等学校の家庭科の目標を達成するためには、小・中学校の学習を生かし、日常生活において課題を見だし、解決に向けて考え、実践することを繰り返し指導し、生徒の実践力を高めることが大切である。しかしながら、生徒が自己の生活を見つめ課題を見いだしたり、思考を深めて課題解決を図ったりする機会は少ないといえる。

こうした生徒の実態を踏まえ、家庭科で学んだ知識・技術を定着させ、生活における実践力を高めるためには、高校における家庭科は、授業を通して生活の自立や生活改善の課題に取り組み、実践する時間を計画的に設定することや課題解決にあたって、他者と意見を交換したり、思考を深め考えをまとめたりして適切な改善策を見いだすことが必要であると考えた。さらに、生徒が適切な改善策を見いだすためには、意欲をもって課題解決に取り組むことが大切であり、生徒の意欲を向上させるためには、自己肯定感を高めるとともに生徒自身の取組に対する十分な達成感が得られることが重要であると考えた。

以上のことから、平成 26 年度教育研究員高校家庭部会は、生徒が家庭科の学習を生かした生活の実践力を高めることができるよう、研究テーマを「よりよい生活を創造するための実践力を育

む指導と評価」を研究主題として授業実践に取り組むこととした。

Ⅱ 研究の視点

本年度の高校部会全体のテーマは「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」である。本研究では、以下の二つの視点を重視して、研究及び検証授業を行うこととした。

1 課題意識をもたせるという視点

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むためには、生徒が意欲をもって学習に取り組むことが不可欠である。そのため、授業の導入時に生徒一人一人に単元における課題を見いださせてから、授業に取り組ませることとした。さらに、授業を通して見いだした課題に対する解決の仕方を検討していく中で、考えをまとめ（論述）、他者と意見交換したり発表する学習活動を取り入れ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を育むこととした。

2 学びを日常生活に生かすという視点

高等学校家庭科は、生徒が社会に出る前に学ぶ最後の家庭科である。そのため、生徒には、自立した生活を営むことができる知識・技術を確実に定着させる必要がある。しかし、実際は学んだ知識や技術を実生活に活用する機会が少なく、定着を図ることに課題がある。さらに、高等学校校家庭科では、よりよい生活を主体的に創造する能力と実践的な態度を育成するために、授業で学んだことを意図的に生徒に実践させ、各自の生活に合わせて活用させることにより、生徒に確実な実践力を身に付けさせることとした。

Ⅲ 研究の仮説

主題設定の理由に示した、家庭科における思考力・判断力・表現力等を育むためには、生徒自身が生活を見つめ課題意識をもって学習に取り組むとともに、学んだことを家庭生活で実践したり、職業や将来の家庭生活を見据えた上で実践することが重要である。限られた授業内で学習したことを実践させることが困難な場合は、意図的に事前課題や事後課題として課題解決に向けて実践させる必要があるのではないかと考えた。

生徒自身が課題を見いだしたり、気付いたりすることに困難を感じることも多い。また、生徒の生活における課題は一人一人異なり、それぞれの課題解決策も異なることを踏まえ、家庭科の学習を生かして生徒の実践力を高めるために、本研究においては研究の仮説を以下のように設定した。

- 1 現状の生活課題を確認させることにより、意欲的に学習に取り組み、課題を見いだすことができる。
- 2 授業で学習したことを工夫して、自己の生活や学校生活に取り入れ、活用させる課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力等を育み、実践しようとする力を高めることができる。
- 3 自己の生活課題の解決に向けた取組を教員が適切に評価することで、生徒の問題解決能力を高めることができる。

Ⅳ 研究の方法

研究主題に基づき授業を展開するにあたり、9月の学期初めに、家庭科の実践アンケートを実施することにした。このアンケートで小・中学校及び高校の一学期までの家庭科で学んだことで、家庭で実践したことは何か確認することとした。

アンケートを、検証授業を行うクラスを中心にA高校（2年生から4年生の141名）、B高校（3年生18名）、C高校（2年生21名）の生徒53名に実施した結果、次のような傾向が見られた。

- ◆家族・家庭などに関する実践内容は、学習したという印象がないのか、実践したことを記述する生徒がほとんどいない。
- ◆食生活に関する実践内容は、調理実習を通して、実際に調理した内容について記述しており、実践する生徒が多い学習領域である。生徒は、作ったという実感をもっているよううかがえる。
- ◆衣生活に関する実践内容は、雑巾作りをはじめ製作した作品名を記入する生徒が多く、調理実習と同様に作ったという実感をもっている。また、記述内容が多岐にわたっている。
- ◆住生活、消費生活及び環境について、実践したことを記述する生徒がいない。

◆学んだことを実践しなかった生徒の理由は、実践する機会がない、時間がない、やろうと思わなかったなどと記述している。

以上の結果を踏まえ、2学期の学習の前に、学習内容（学習する単元）における生徒自身の生活課題について考えさせる機会を設け、生徒が自らの生活課題を意識し、課題解決に向けて学習に取り組めるようにした。実際に研究を実践した科目は、共通教科「家庭」における「家庭基礎」、専門教科「家庭」の「フードデザイン」及び「発達と保育（旧学習指導要領による）」である。いずれも週に2単位時間で実施し、実践力を高めるとともに、家庭生活、職業や将来を見据えた実践課題を出すこととした。

授業を展開するにあたり、生徒の課題意識をより高めさせるとともに、課題解決となる方策を見いだしたり自己の思考を深めたりするために、グループでの話し合いや発表等の学習活動を取り入れることとした。また、生徒には、「フローチャート式自己評価」に取り組みせ、生活課題の発見、実生活での実践及び生活の改善、話し合いや発表学習を通して学んだこと、自己における今後の課題等について自己評価させることとした。生徒の自己評価やワークシートの記述内容から、生徒の変容を読み取り、評価・検証することとした。具体的な方法は、次のとおりである。

1 夕食における生活課題を見だし、課題解決に向けた献立作成と実践から食生活の知識・技術の定着を図る学習活動の工夫

専門教科「家庭」における専門科目「フードデザイン」の授業において、家庭科実践アンケートを行い、家庭科で学習したことが実生活でどれだけ生かされているのか把握した。高等学校家庭科で学習した食生活に関する学習は、比較的強く印象に残ってはいるものの、授業の中だけ

【家庭科実践アンケート】

家庭科アンケート ～授業で学んだことを実践してる？～

1 小学校や中学校の家庭科で学んだことは何ですか？

2 1で学んだことで実生活で実践したことは何ですか？

3 高校の家庭基礎で学んだことは何ですか？

4 3で学んだことで実生活で実践したことは何ですか？

5 高校の1学期の家庭科で学んだことは何ですか？

6 5で学んだことで実生活で実践したことは何ですか？

7 実践しなかった場合、それはなぜですか？

の体験で終わってしまい、実生活では忙しく、食に関しては親まかせになっているなど、ほとんどの生徒が学んだことをあまり実生活において実践できていない現状が見えてきた。

このような生徒の実態を踏まえ、食事テーマの設定と献立作成において、日常食の献立作成を学習するにあたり、食生活チェックシートを記入させ、自分の夕食の食生活を振り返らせながら夕食における生活課題について考えさせることとした。見いだした生活課題を解決するにあたり、これまでの学習で朝食及び昼食の献立と実践について学習してきたことを振り返らせ、理想とする夕食の一汁三菜の献立を考え配膳図を作成すること、作成した配膳図を基に実際に家庭で調理することを実践させることで、学習したことを生かし実践力を高めることとした。

一汁三菜の配膳図の作成には、料理雑誌の切り抜きを活用した。雑誌を見ながら献立を考えることで、生徒の学習意欲を引き出すようにし、主食、主菜、副菜を基本とする一汁三菜の献立に関する知識の定着を図った。

発表学習では、実際に家庭で理想とする献立を調理してみてどうだったのか、家族の反応や自分の感想を発表させる中で、実践したことへの達成感を得られるようにした。また、他者の発表を聞いて、自分の食生活改善に生かせる点はないか考えさせ、参考になることをワークシートに記述させるようにした。

学習のまとめにおいては、見つけた自己の生活課題が家庭での実践により解決でき、学びの達成感や次の課題意識につながったかどうか、ワークシートやフローチャート式自己評価を行い、記述内容から生徒の変容を読み取り評価・検証を行った。

2 保育体験実習から得た課題を自己の課題として設定し、その課題解決に向けてグループ学習に取り組み、保育体験実習における実践力を高める学習活動の工夫

専門教科「家庭」の専門科目である「発達と保育」選択者に、家庭科実践アンケートを行った。その結果、調理や裁縫など小中学生の家庭科で学んだことを家庭で実践したという記述がみられたが、高校で学習した家庭科の内容を家庭において実践しなかった生徒は18人中8名と多いことを実感した。また、実践した内容は、食生活に関する調理がほとんどであった。保育に関わる実践については、家族や親戚、学外で活動しているサークルにおいて乳幼児がいる生徒を除いては、身近に乳幼児がいないことから、将来役に立つであろうと思いながらも学習したことを実生活において実践できない状況が分かった。

この結果を踏まえ、保育に関する実践力を高めるために、履修生徒が3年生であることから、職業選択や将来の家庭生活を見据えて、授業の計画を見直し、保育体験実習の回数を増やすとともに、保育園の行事参加等の課題に取り組みさせることで、実践させる機会を増やすこととした。

学習単元は、「集団の中での遊び」であり、遊びを通して子供を育む観点から、1学期の保育体験実習等の体験から生活課題を見いださせることとした。保育体験実習から生活課題を見いださせるために、保育実習記録の記述内容を工夫し、グループで話し合いをしながら課題解決を図り、よりよい保育体験学習の計画を立てさせ、実践させることにした。

保育体験実習終了後、子供たちの様子や保育士の支援から学んだことを保育実習記録にまとめさせたり、フローチャート式自己評価に取り組みさせたりして、その記述内容から生徒の変容を読み取り評価・検証を行った。

3 消費生活における生活課題を見だし、生徒の学習意欲を高めるための学習活動の工夫

共通教科「家庭」において、家庭科実践アンケートを行ったところ、消費生活の分野では、ク

ーリング・オフ制度や悪徳商法などを学習したことは印象に残っているが、日常生活では実践していないことが分かった。生徒の実態を踏まえ、消費生活の学習導入時に、これから学習する消費生活の課題を見いだすきっかけとなるよう、消費生活チェックシートに取り組みせ、一人一人の生活課題を見いださせるようにした。消費生活チェックシートは、チェック項目に対して「できている」か「できていない」かの2択で答えさせる問題で構成した。生徒が家庭生活や学校生活を振り返りながら回答できる設問とした。

本時の検証授業は、4～5人のグループ学習を中心とし、話し合いをさせることにより生徒が積極的に授業に臨めるようにした。また、消費生活チェックシートを行う前に、金利の計算に取り組みさせることにした。単元の学習の導入時期に、あえて難しい問題に挑戦させることで、社会に出る前に理解しておかなければならない問題が多くあることに気付かせることとした。

また、本時の授業の取組や記述したワークシートの記述内容から、消費生活における自己の生活課題について、見いだすことができたかどうか評価・検証することとした。

【家庭科実践アンケート 実践したことは何ですか。】(複数回答)

| | 家族・家庭、 子供、高齢者等 | 食生活 | 衣・住生活 | 消費生活と 環境 |
|--|---|---|--|--|
| 小学校「家庭」、 中学校「技術・家庭」 (家庭分野) を学んで実践したこと | <p>○家事労働に関わる 実践1人</p> <p>◆母の手伝い</p> | <p>○調理の基礎、日常食の調理の実践 31人</p> <p>◆ご飯とみそ汁 ◆カレー ◆白玉団子 ◆サラダ、ドレッシング ◆お菓子作り ◆米を研ぐ ◆夕食作り ◆お茶の入れ方 ◆調理</p> <p>生徒の記述から</p> <p>◎切り方はレシピを見て作る時に役立った。 ◎ごはんを作るときにバランスを気を付けること ◎小学校の時に給食を見て、「これは炭水化物、これはカロテン、これはビタミンCなど栄養素を理解してから食べた。</p> | <p>○手縫いやミシン縫いによる製作の実践、布を用いた物の製作の実践17人</p> <p>◆裁縫キットで製作 ◆洋服を縫う ◆クッション ◆短パン ◆ミシンを使った ◆ししゅう ◆布を使って作品作り ◆小物入れ ◆ランチョンマット ◆エプロン作り</p> <p>○日常着の手入れに関する 実践24人</p> <p>◆洗濯をした ◆洗濯物をたたむ ◆ボタン付け ◆服のほつれ直し ◆外れたボタンを付けた</p> | <p>○家庭生活と消費2人</p> <p>◆クーリング・オフ</p> |
| 高等学校「家庭」を 学んで実践したこと | <p>○保育に関わる実践 8人</p> <p>◆壁面構成を家で作った ◆絵本の読み聞かせ ◆弟と遊んだ</p> <p>生徒の記述から</p> <p>◎妹のためにおもちゃを作ったり、授業で作ったのをあげた。 ◎子供との触れ合い方 ◎子供が好きになった ◎DVに触れて興味をもって調べた。 ◎虐待について</p> | <p>○食品と調理に関わる実践36人</p> <p>◆夕飯づくり ◆パンケーキ、煮物、パスタ、味噌汁などを作った ◆お菓子 ◆包丁を研ぐ ◆テーブルマナー ◆一汁三菜</p> <p>生徒の記述から</p> <p>◎栄養に気を付けるようになった。 ◎調理実習で作った料理を家族に作った。 ◎自分の食生活を気を付けるようになった。 ◎栄養の高い食事を意識してとった。 ◎規則正しい生活リズムを意識した。 ◎調理実習で作った料理を家族に作った</p> | <p>○被服に関する実践4人</p> <p>◆毛糸でコースター作り ◆アイロン、ボタン付け ◆雑巾</p> | <p>【実践しなかった生徒の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践する機会がなかった ・時間がないから ・やろうと思わなかった ・内容を覚えてなかった ・保育の実践は、周りに幼児がいないから ・被服の実践は、家にミシンがなかったから |

食生活改善！ 自己評価 フローチャート

| | | |
|--|---------------------|--|
| <p>1. 課題発見</p> <p>できなかつた ↓ 発見できなかつたのはなぜ？ ()</p> | <p>できた!! ⇒</p> | <p>課題の内容</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">生活を見つめられたね</p> |
| <p>2. 実践</p> <p>できなかつた ↓ 実践できなかつたのはなぜ？ ()</p> | <p>できた!! ⇒</p> | <p>実践の内容</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>周囲の反応</p> |
| <p>3. 生活改善</p> <p>できなかつた ↓ 改善できなかつたのはなぜ？ ()</p> | <p>できた!! ⇒</p> | <p>改善できたこと、工夫できたこと</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">生活をよりよくすることができたね！</p> |
| <p>4. 発表活動</p> <p>できなかつた ↓ できなかつたのはなぜ？ ()</p> | <p>できた ⇒</p> | <p>発表して考えたこと、改めて感じたこと</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>参考になった取組や意見等</p> |
| <p>5. 今後の課題</p> <p>なし ↓ 見つからなかつたのはなぜ？ ()</p> | <p>見つかる!! ⇒</p> | <p>新たな今後の課題</p> <p style="text-align: center;">↓</p> |

食生活の改善の取組に関して
自己採点しよう

/100点

生涯を見据えて
どんどん生活を改善していこう！
生活も仕事もPDCAが大事
Plan, Do, Check, Action

V 研究の内容

1 研究構想図

全体テーマ **「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」**

高校部会テーマ **「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」**

現状と課題（生徒の思考力・判断力・表現力等についての現状を分析し、課題を抽出する）

【現状】

- ・自己及び家庭生活における課題を見いだせず、家庭科で学んだことを家庭生活において実践できる機会が少ない。
- ・生活体験が乏しく、実験や実習などにおいて、イメージしたり段取りを考えたりして取り組むことができない。
- ・氾濫する情報の中で、見聞きした情報をそのまま自分の考えや意見とすることが多く、恥ずかしがったり失敗を恐れたりして、自分なりの意見をはっきり述べられないなど表現する力が乏しい。

【課題】

- ・生活に関心をもち、学習したことを生かして自己の生活及び家庭生活を振り返り、生活における課題を見いだす必要がある。
- ・ホームプロジェクトをはじめ、生活の自立やより良い生活に向けた問題解決的な学習に取り組み、家庭生活や学校生活などにおいて、課題解決を図る実践に取り組む必要がある。
- ・学習成果について、評価規準に基づき生徒自身及び教員が適切に評価し、生徒の達成感や自己肯定感を高める。

家庭部会主題

よりよい生活を創造するための実践力を育む指導と評価

仮 説

- ・現状の生活課題を確認させることにより、意欲的に学習に取り組み、課題を見いだすことができる。
- ・授業で学習したことを工夫して、自己の生活や学校生活に取り入れ、活用する課題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力等を育み、実践しようとする力を高めることができる。
- ・自己の生活課題の解決に向けた取組を教員が適切に評価することで、生徒の問題解決能力を高めることができる。

具体的方策

- ・単元における生活課題調査を行い、自己の現状を確認させることで、課題意識をもたせる。
- ・生活課題を解決する過程において、発表学習や話し合いを取り入れ実践させることで、思考力・判断力・表現力等を育む。
- ・自己評価を通して、生活課題を改善しようとする実態を読み取り、生涯を見通したよりよい生活を考えさせる。

評価・検証

- ・実践の実態が確認できる自己評価やワークシートの内容から、生徒の変容を読み取り、評価・検証する。

2 実践事例 1

| | | | |
|-----|---------|----|--------|
| 科目名 | フードデザイン | 学年 | 2～4 学年 |
|-----|---------|----|--------|

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名 6章 フードデザイン実習 1節 日常食の献立作成

イ 教科書「フードデザイン」実教出版

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・日常食の献立を作成するための留意点を理解し、望ましい献立を作成することができる。
- ・日常食における「一汁三菜」の献立作成及び配膳について理解し、活用することができる。

(3) 単元の評価規準

| ア 関心・意欲・態度 | イ 思考・判断・表現 | ウ 技能 | エ 知識・理解 |
|--|---|--|--------------------------------------|
| ・献立作成に関する内容に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。 | ・献立作成を計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身に付けている。 | ・食品の選択、購入、管理、調理など献立作成について、情報を収集・整理できる。 | ・食品の選択、購入、管理、調理など献立作成に関する知識を身に付けている。 |

(4) 単元（題材）の指導と評価の計画（10時間扱い）

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | | 評価規準 (評価方法など) |
|---------|---|-------|---|---|---|---|
| | | 関 | 思 | 技 | 知 | |
| 第一時 | ・献立作成について理解する。 ・夕食の献立について各自の生活課題を見いだす。 | ● | | | | ・生活課題に応じた夕食の献立を考えようとしている。 ・課題を見いだしている。」 (観察、ワークシート) |
| 第二時 | ・雑誌の切り抜きを利用して一汁三菜の夕食の献立を作成する。 | | ● | ● | | ・「一汁三菜」を理解し、工夫しながら献立を考え、表現している。 (観察、ワークシート) |
| 第三時 | ・発表用資料を作成する。 ○「私の一汁三菜」配膳図 ○発表原稿 | | ● | ● | | ・自分のプレートを作成できる。発表をイメージしながら、原稿を作成している。 (観察、ワークシート) |
| 第四時(本時) | ・発表学習 「私の一汁三菜」プレートについて | ● | | ● | ● | ・家庭で実践し、一汁三菜を理解しながら発表している。 (観察、ワークシート) |

| | | | | | |
|-----|--------------|--|---|---|--|
| 第五時 | ・まとめ 自己評価 | | ● | ● | ・実践を踏まえて自己の食生活の課題が解決できている。 (ワークシート、自己評価表) |
|-----|--------------|--|---|---|--|

(5) 本時 (全 10 時間中の 7 時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 「私の一汁三菜」をテーマに自己の生活課題に応じた夕食献立を作成し、実生活において実践したことを発表する。
- (イ) 他者の発表を聞いて、自分の食生活をよりよく改善できないかについて思考を深め、まとめる。

イ 本時の展開

| 過程 | 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 (ア～エ) |
|-------------------------------------|-----|--|---|--|
| 導入 | 8分 | ・本時の内容を確認し、発表の準備をする。 | ・「私の一汁三菜」配膳図、発表原稿を準備させ、発表記録用紙を配布し、説明する。 | ウ (実践した配膳図、発表原稿) |
| 夕食における生活課題について、実践したことを発表しよう。 | | | | |
| 展開 | 35分 | <ul style="list-style-type: none"> ・「私の一汁三菜」の配膳図を用いて、課題解決に向けて考えた夕食の献立について発表する。 ・「一汁三菜」の献立について、説明する。 ・実生活で実践した際の家族の反応や自分の感想について話す。 ・聞いている人からの質問に答える。 ・発表記録用紙をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表に戸惑いが見られる生徒には、これまでの授業で生徒が取り組んできたことを生かして発表できるよう声掛けをする。 ・「一汁三菜」の献立について説明がない生徒には、説明するよう促す。 ・発表内容について質問などが活発になるよう声掛けをし、質問しやすい環境を整える。 ・発表を聞いている生徒に、聞きたいことなどがいい声掛けをし、質問させる。 ・家庭における実践については、学校給食を利用してできなかった生徒もいるなど、個々の生徒の実態について配慮しながら、ワークシートに記述させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ウ (実践した配膳図、発表内容) エ (発表内容) ア (観察) ア (観察) エ (発表記録用紙) |
| まとめ | 2分 | ・次時の学習内容について理解する。 | ・次時も続けて発表することを知らせる。 | ア (観察) |

(6) 本時の振り返り

ア 本時は、献立作成に関する学習のまとめの時期にあたり、各自が考えた夕食の一汁三菜の献立について実践したことを発表させる授業を展開した。発表学習に関しては苦手意識の強い生徒もいることから、発表原稿を事前に記入させることにより、比較的落ち着いて発表させることができた。

イ 家庭での実践を踏まえての発表であったので、自分のスマートフォンで実践した献立の写真を撮って見せたり、実際に写真を印刷して持参したりする生徒もいて、食卓の様子が分かり、生徒の発表をより具体的に説明する際の実験材料となった。今回は、模造紙を用いた発表であったが、プレゼンテーション資料を作成し、自宅で実践した献立について、画像を取り入れるなどして発表させれば、生徒の表現力をより向上させることができると考える。

ウ 生徒自身の自己評価や生徒同士の質問等を通して、発表のよかったところや、生徒が実践を通して今後の課題を見いだしているかどうかなどの視点から、教師が質問や講評を行い、生徒同士の質問が活発になるように試みた。また、生徒は、他の生徒の発表に対して丁寧に感想のコメントを記入している点から、他者が考案した献立や実践について、興味・関心をもって聞いていたことが分かった。

(7) 成果と課題

ア 課題を見いだすための食生活チェックシートについて

自己の食生活の課題を見いださせるために、単元の導入部分で食生活に関するチェックシートに取り組みさせた。食生活の学習範囲は幅広いが、チェックシートを通して夕食の献立について集中して考えさせたことで、生活課題が具体的になり、解決の方法について改善策が検討しやすくなった。より課題を見いだしやすいチェックシートの工夫が必要である。

イ 思考力・判断力・表現力等を高めるための発表学習について

本時は献立作成に関する学習のまとめの時期にあたり、各自が考えた夕食の一汁三菜の献立を発表させるなど、言語活動の充実を図った。発表学習に関しては苦手意識の強い生徒がいることから、発表原稿を事前に記入させておいたため、比較的落ち着いて発表させることができた。また、発表しなければいけないことを知ると、各自で食材の栄養素や、旬の野菜は何かなど、発表内容についてこれまでの学習を生かして自分で調べるなど、よりよい発表内容にしようと努力する面が見られた。

また、発表のために収集した情報の中から、家族のためにどのような献立を選択したらよいのかなど、より思考を深め判断する場面を増やすきっかけとなった。生徒の中には撮った写真を見せるなど、緊張しながらも落ち着いて発表する姿から、生徒自身の表現力の向上にもつながった。今後は、効果的な発表学習をどの場面で設定できる、検討が必要である。

ウ 家庭での調理の実践を通して実践力を高める工夫について

「夕食の献立で、自分の食生活課題を解決するために考えた一汁三菜を作る」というテーマで、実際に家庭で実践するという課題に取り組みさせたが、時間がなく本時の授業までに夕食を作ることができなかった生徒や、一汁三菜が揃えられず、一品のみ作った生徒、一人で作れず、母や友人に協力してもらって取り組んだ生徒など、課題に取り組む生徒の実態は様々であった。生徒それぞれの生活が異なるので一律に課題に取り組ませるものの難しさを感じ

た。実践が困難な生徒には、実践期間を長く、数回設定するなどの対応が必要である。

エ 自己評価について

フローチャート式自己評価は、食生活の課題を見いだせたか、家庭で実践したか、発表ができたか、次の課題を見いだせたかなど、実践したことを振り返り、自分の取組に対して得点をつけ評価する内容にした。全ての項目を達成できた生徒は70点以上の自己評価をしたが、家庭で実践できなかった生徒の自己評価は低いものになった。自己評価の項目をより細分化した方が、更に評価しやすいものになったと考えられる。

【生徒が実践した「一汁三菜」の夕食献立の配膳図】



料理雑誌を切り抜いて作成した。生徒はこの配膳図を用いて発表した。

【食生活チェックシート】

1 毎日の夕食の献立について分析し、自分の食生活の課題を見つけよう！

①主食・主菜・副菜（せめて一汁二菜）がそろっていますか。

Always・Sometimes・Never の理由

②魚介・肉・卵・大豆類などたんぱく質を摂取できる主菜料理がありますか。

Always・Sometimes・Never の理由

③野菜・いも・小魚・海藻なおビタミン、無機質を摂取できる副菜料理がありますか。

Always・Sometimes・Never の理由

④水分や野菜不足を補う汁物料理がありますか。

Always・Sometimes・Never の理由

⑤季節の材料（旬）を生かした食材が入っていますか。

Always・Sometimes・Never の理由

⑥買い物・調理・後片付けなどを手伝っていますか。

Always・Sometimes・Never の理由

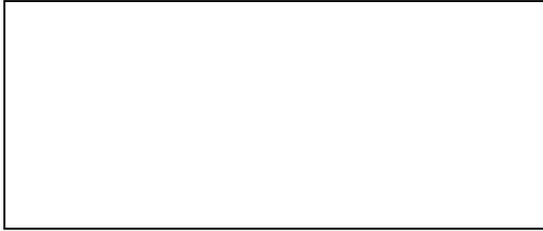
⑦調理済みのお惣菜やインスタント食品に頼らず手作りの料理ですか。

Always・Sometimes・Never の理由

夕食の献立作成に取り組みながら食生活の課題を改善しよう。

2 最近3日間の夕食の献立を思い出し、食生活の課題を見いだす参考にしよう。

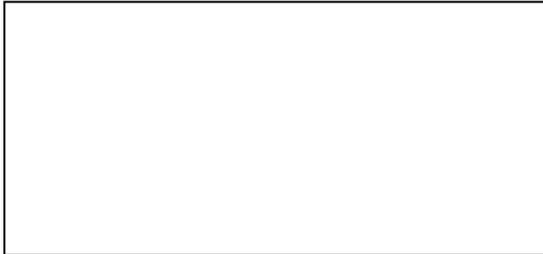
昨日の献立（夕食）を配膳図で表しましょう。



一昨日の献立（夕食）を配膳図で表しましょう。



3日前の献立（夕食）を配膳図で表しましょう。



【夕食における生活課題について、発表した生徒のフローチャート式自己評価の記述から】

○課題の内容

- ・野菜不足を改善、海藻類を使ったメニューを考える。
- ・肉料理が多いため、魚介類を取り入れる。小鉢を多く取り入れる。
- ・汁物がでることがない。季節感のある料理がなかった。野菜も少ない。

○他の人の発表を聞いて参考になった取組や意見等

- ・食材の旬や栄養素を細かく調べると家族に話せるし勉強にもなる。
- ・準備をきちんとすることが大切だと思った。家族と一緒に食べるのが大切。
- ・旬の物を入れて季節感を出す献立はよいと思った。

○新たな今後の課題

- ・自分でアレンジして料理を作る。
- ・料理を作る時はもう少し手際よく何が必要なのか考える。そして見た目も意識して一汁三菜の献立を作る。
- ・自分で料理するときには、一汁三菜を基本とし、その季節にある旬の食材を使い、家族と自分の栄養に気を遣いたい。

3 実践事例2

| | | | |
|-----|-------|----|-----|
| 科目名 | 発達と保育 | 学年 | 3学年 |
|-----|-------|----|-----|

(1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

- ア 単元名 4章 ともに生活する
 イ 教科書「発達と保育」実教出版

(2) 単元(題材)の指導目標

- ・現在の保育をめぐる問題について考え、高校生として保育を学ぶ意義を理解する。
- ・乳幼児の発育・発達には遊びも欠かせないことを理解し、子供の発達段階に合った遊びの展開の仕方について理解する。

(3) 単元の評価規準

| ア 関心・意欲・態度 | イ 思考・判断・表現 | ウ 技能 | エ 知識・理解 |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・集団保育と家庭保育の観点から、子供を保育する意義について子供と関わって学ぼうとしている。 ・自身を、子供を取り巻く周囲の大人として捉え、果たすべき役割を踏まえて主体的に学習活動に取り組もうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団保育・家庭保育、それぞれにおける場面で、子供との適切な関わり方について課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の発達段階に応じた遊びについて情報を収集・整理することができる。 ・保育体験実習を通して、子供の生活や行動などを観察し、客観的な分析を通して、子供の発達段階に対応した保育技術を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団保育における子供との関わり方、保育における環境整備などについて理解している。 ・家庭における適切な親子関係の在り方や現代の親と子が抱える問題点について理解している。 |

(4) 単元(題材)の指導と評価の計画(26時間扱い)

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | | 評価規準 (評価方法など) |
|-----|--|-------|---|---|---|--|
| | | 関 | 思 | 技 | 知 | |
| 第一時 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科実践アンケートの実施 ・図書室で児童虐待の新聞記事を探す。 | ● | | ● | | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに取り組んでいる。 ・新聞記事から情報を収集し、整理している。 (観察、ワークシート) |
| 第二時 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待について現状と課題を考察し、発表する。 | | ● | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事をまとめ、発表している。児童虐待の問題について理解を深めている。 (発表、レポート) |
| 第三時 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待についての課題レポート(宿題)の発表 | | | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を発表している。 (ワークシート) |

| | | | | | |
|---------|---|---|---|---|--|
| 第三時 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドロシー・ロー・ノルト『子は親の鏡』と新聞記事から子供との関わりの重要性を考える。 ・保育実習についてのオリエンテーション ・フェルト名札づくり | ● | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を発表している。(ワークシート) ・実習について関心をもっている。(観察) ・幼児が喜ぶよう名札を製作することができる。(作品) |
| 第四時 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居と遊びの考案 | ● | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を読む工夫を知る。(ワークシート) |
| 第五時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習① (A保育園) ふれあいと準備した遊びの実践 | ● | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児と積極的に関わり、遊びの実践から課題を見いだしている。(観察、レポート) |
| 第六時 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の発表会 | ● | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児を集中させる手立てを実践する。工夫をしながら紙芝居を実演する。(観察) |
| 第七時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習② (B幼稚園) ふれあいと紙芝居の実践 | ● | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児と積極的に関わり、保育体験実習から課題を見付けることができる。(観察、レポート) |
| 第八時(本時) | <ul style="list-style-type: none"> ・A保育園及びB幼稚園での実習のまとめとして、課題発表から子供との関わりや遊びについて考える。 ・改善した遊びの考案 | | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・実習における課題を見いだし、解決策をまとめ、子供との適切な関わり方について理解している。(自己評価票、ワークシート) ・改善した遊びを考案している。(ワークシート) |
| 第九時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習③ (A保育園) ふれあいと準備した遊びの実践 | | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を生かした実践をすることができる。実践から次の課題を見つけることができる。(観察、レポート) |
| 第十時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習④ (A保育園) ふれあいと準備した遊びの実践 | | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を生かした実践ができる。実践から次の課題を見付けることができる。(観察、レポート) |
| 第十一時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習を通しての考察を写真を利用して掲示物としてまとめる。 ・B幼稚園での活動計画の立案 | ● | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・写真を利用し、実習の課題や解決策をまとめることができる。 ・前回の幼稚園での活動課題を生かして計画を立案することができる。(作品、ワークシート) |
| 第十二時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習⑤ (B幼稚園) ふれあいと紙芝居の実践 ・課題を見いだす。 | | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を生かした実践に取り組んでいる。 ・実践から次の課題を見いだすことができる。(観察、レポート) |
| 第十三時 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習を通しての考察を、写真を利用してまとめ、発表する。 | | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習で得た課題と経験を今後の生活にどのように生かしていくか考えをまとめている。(観察、自己評価票、作品) |

(5) 本時 (全 26 時間中の 16 時間目)

ア 本時の目標

(ア) 保育体験実習における子供との関わり方や遊びの指導について自己の課題を発表し、クラス内で共有するとともに、保育者としての関わり方について理解を深める。

(イ) 自己と他者との課題の改善を目指し、よりよい子供との関わり方について、次回の保育体験実習における「遊び」の計画改善案を立案する。

イ 本時の展開

| 過程 | 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 (ア～エ) |
|-------------------------|-----|---|---|-------------------------------|
| 導入 | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認し、発表方法について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめたワークシートに従って発表することを説明する。 | イ（観察） |
| 2回目の保育体験実習における課題を発表しよう。 | | | | |
| 展開 | 35分 | <ul style="list-style-type: none"> ①・2回目のA保育園実習の反省・自己の課題を発表する。 ・発表を聞いている生徒は、具体的に聞きたい点について質問する。発表生徒は、質問に答える。 ・反省・課題発表記録票を記入する。 ②・次回の保育体験実習に向けて、共有した課題を踏まえた遊びについて、グループ毎に考え、ワークシート（遊び計画）にまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験実習の様子を分かりやすくするために、教師が撮影した写真を活用して、発表させる。発表を聞いている生徒が理解を深めるよう、遊びのポイントになる点について補足し、説明する。 ・画用紙、BGM、折り紙、プレゼントの数など、実習の準備は十分であったかどうか、遊びの内容や時間配分等は、適切であったかどうか、子供たちが楽しんでいただけたかどうか、遊びの説明や問いかけ等は、年齢に適した表現で、子供たちが理解できるものであったかどうか、について確認する。 ・反省・課題発表記録票に発表内容を記入させる。 ・遊びの計画の途中を見て、上記の課題を生かすように助言する。 | イ（観察、ワークシート） エ（ワークシート） |
| まとめ | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題及び次回の学習について、確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習準備のために、昼休みから17時まで被服室を解放する。 ・ワークシート（遊び計画）の提出締切期限について ・来週はA保育園で保育体験実習があること。 | エ（観察） |

(6) 本時の振り返り

ア 「発達と保育」を選択履修している生徒は、子供と関わる職業を目指していたり、子供と関わりたいという思いが強かったりするため、保育体験実習の多い本授業に対する関心・意欲がとても高い。1学期をも含めると本時までの保育体験実習の回数は3回であり、生徒

の保育実習記録表より一人一人の生徒の保育体験実習に向けて改善すべき課題はたくさんあるが、生徒同士に共通する課題も多く、課題を共有することで今後の保育体験実習で保育者の視点が広がり、実習の取組もより充実したものになると考えた。本時の発表に向けて、前時にA保育園での実習記録表や実習時の写真を確認しながら、グループ毎に反省と自己の課題についてまとめさせた。

イ 反省や課題の発表をスムーズに行うため、保育実習記録表に記録させた。A保育園での保育体験実習（90分）は、前半は各年齢毎の子供々々の触れ合いが中心であり、後半はグループ（3名/班）毎に計画した遊びの実践の時間である。保育実習記録表でまとめる反省や課題は、個人のもので担当クラス班の内容がまとめられるものにした。生徒は、他のグループの発表も参考にしながら、反省や課題を保育実習記録表にしっかりと書き込み、年齢毎の保育者としての支援について理解を深めた。

ウ 発表で共有した課題の解決を目指し、A保育園におけるこれからの保育体験実習について、グループ毎に遊びの計画書を基に準備させた。保育実習記録表や遊びの計画書を記述させることで、保育体験実習の目的意識を高め、前回の実習を踏まえて手際よく準備に取り組むなどの効果が見られる。

(7) 成果と課題

ア 保育実習記録表の工夫について

前回の実習を生かして次の保育体験実習に取り組めるように、保育体験実習記録表に、「今後の課題（ふれあい及び準備した遊び）」の記入枠を設けた。さらに、「前回の実習での課題」と「今回の目標」の記述欄を設けることにした。日常的に課題意識をもち、その解決に向けた実習に取り組めるように、記録表の作成や遊びの準備等は、授業時間以外の時間も活用することで、取り組ませることができた。今後も生徒が課題把握しやすいよう工夫していく。

イ 保育体験実習の課題を共有するための発表学習について

これまでは、保育体験実習の成果について、掲示物を作成し校内の廊下等に掲示していたが、今回は、課題を共有することを目的として全体で発表学習を取り入れることとした。発表学習を通して、実習での子供との関わり、遊びの準備における反省や課題について、より共通理解を深めて次の保育体験実習に生かすことができた。今後も、目的を明確にした発表学習に取り組み、よりよい保育体験学習の実践に向けて課題を共有する機会を増やしていく。

ウ 評価について

A保育園での1回目の実習終了後に、「フローチャート式自己評価」に取り組ませた。その結果、生徒全員（9名）が実習への改善を意識して取り組むことができた。遊びの準備が十分ではなかったなどの反省や、教員が生徒の取組を観察する際の工夫など課題はあるが、課題を意識して取り組み、次回の実習へ意欲的に臨むきっかけとなった。

生徒一人一人の活動の様子を写真とともに記録しておき、生徒が作成した保育実習記録表と遊びの計画書とともに、評価規準に照らし合わせて総合的に評価した。少人数での授業のため、生徒の成長を意識しながら評価することができたが、効率的に評価を行う工夫も必要である。

【保育実習記録表】

| | | | |
|------------------------------|-----------|------------------------|-------|
| 月 日 () 年 組 () 氏名 () | | | |
| 実習先 | 組 (歳) | 担任の 名前 | 先生 |
| | 前回の実習での課題 | 今回の目標 | |
| ふれあい タイム 8:40~ 9:20 | | | |
| 準備した 遊び 9:20~ | | | |
| 時間 | 園児の活動の内容 | 保育の配慮 (保育士や自分が気を配ったこと) | 環境・準備 |
| | | | |

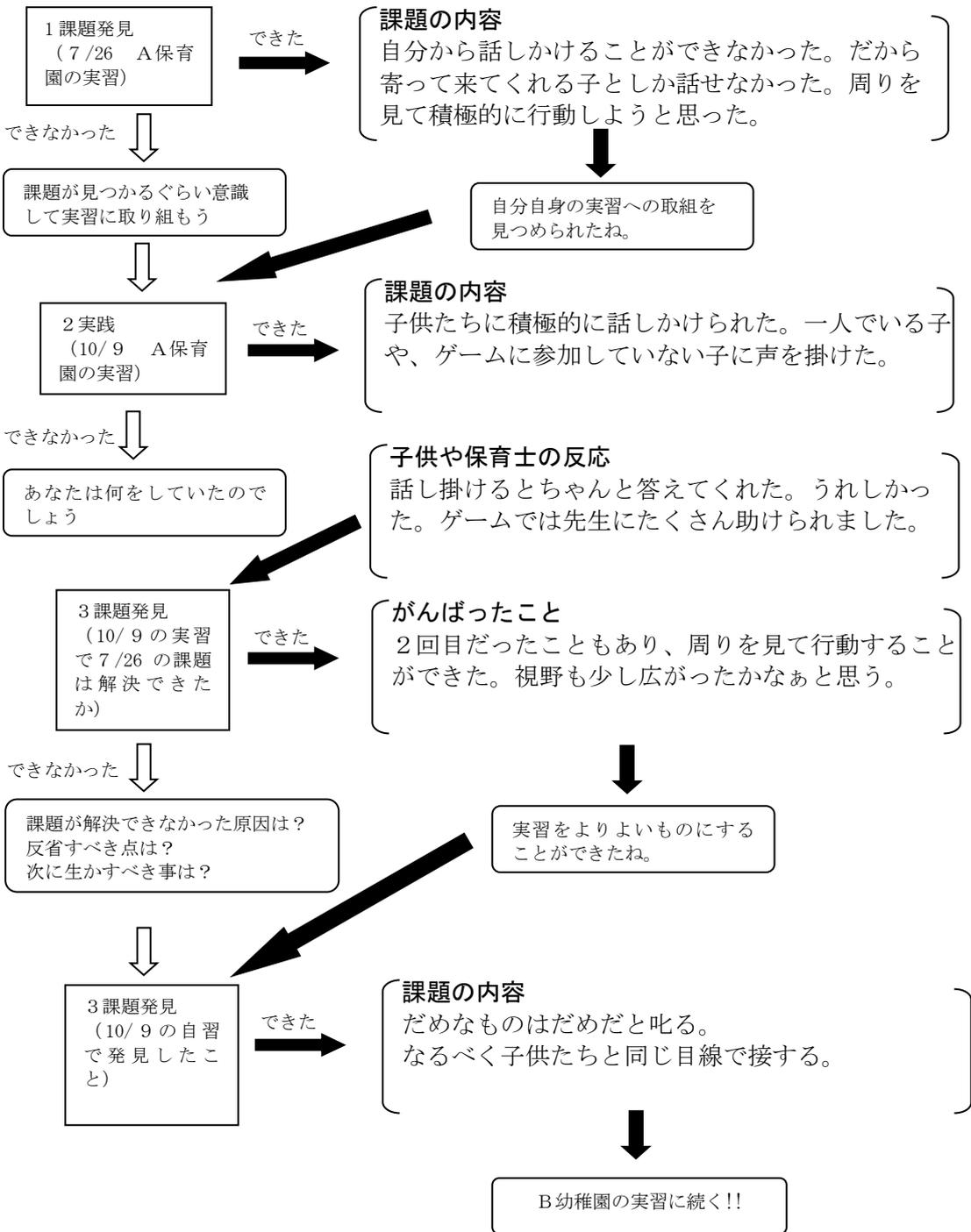
【考察・感想】

| |
|-------------------------------------|
| <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> |
|-------------------------------------|

【今後の課題】

| |
|----------------------------------|
| <p>①ふれあいタイム</p> <hr/> <hr/> |
| <p>②準備した遊び</p> <hr/> <hr/> <hr/> |

実習への取組改善 自己評価 フローチャート



生涯を見据えて
 どんどん生活改善 (課題解決)
 していこう! 実習も生活も
 仕事も P D C A 大事
 Plan, Do, Check, Action

4 実践例3

| | | | |
|-----|------|----|-----|
| 科目名 | 家庭基礎 | 学年 | 2学年 |
|-----|------|----|-----|

(1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

- ア 単元名 経済生活を営む
 イ 教科書 「家庭基礎 自立・共生・創造」
 副教材 「生活ハンドブック」

(2) 単元(題材)の指導目標

- ・消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて消費行動ができるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができる。

(3) 単元の評価規準

| ア 関心・意欲・態度 | イ 思考・判断・表現 | ウ 技能 | エ 知識・理解 |
|--|---|---|--|
| ・家庭の経済と消費、消費行動と環境に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 | ・家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費生活と環境との関わりについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、創意工夫して表現している。 | ・実践的、体験的な学習活動を通して、調査・研究を行い、必要な情報を収集・整理することができる。 | ・家庭の経済と消費、消費行動と環境について理解し、消費者として責任をもって行動するために必要な知識を身に付けている。 |

(4) 単元(題材)の指導と評価の計画(9時間扱い)

| 時間 | 学習活動 | 評価の観点 | | | | 評価規準 (評価方法など) |
|-------------|---|-------|---|---|---|---|
| | | 関 | 思 | 技 | 知 | |
| 第一時 (本時) | 生活課題の確認(1時間) ・金利計算を通して、自分の生活の中に知らない消費者問題があることに気付く。 ・CHECKシートに記入し、消費生活全体の各自の課題を決める。 | ● | | | | ・消費生活における自己の生活課題を見いだそうとしている。 (観察) ・自己の消費生活の課題を整理し、まとめている。 (ワークシート) |
| 第二時 | 長期の職業設計(1時間) ・フリーターについて知っていることをまとめる。 (給料、年齢など) ・フリーターと正社員の違いを確認し、自分の将来について考える。 | | ● | | ● | ・フリーターと正社員の違いを理解している。 (ワークシート) ・職業に就くことの意義を理解し、自分の将来について考えを深めている。 (ワークシート) |

| | | | | | |
|-----|--|---|---|---|---|
| 第三時 | 収入と支出（1時間） <ul style="list-style-type: none"> ・家計とは何かを確認し、給料明細の見方、「可処分所得」の範囲で生活することを理解する。 ・ライフステージによって支出内容が変わることを理解する。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 生活を営むための収入と支出について、家計管理という視点で理解している。 (ワークシート、発言) ● 短期・長期の家計マネージメントの必要性を理解している。 (ワークシート) |
| 第四時 | 家計のマネージメント～一人暮らしの部屋探し～（2時間） <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしに関する重要用語、部屋探しの手順を確認し、一人暮らしをするには、どれくらいのお金が必要なのか計算をする。 ・4つの物件情報の中から自分に合う物件を選び出す。 ・この間の学習について、フローチャート式自己評価を行う。 | ● | ● | | <ul style="list-style-type: none"> ● 住居や契約に関する用語・記号を理解し、契約までの経過や重要事項説明での内容確認の大切さを理解している。 (ワークシート) ● 様々な賃貸物件情報をしっかりと読みとり、比較検討し自分の住欲求に合う物件を選択できる。 (観察、ワークシート) ● この間の学習における自己の課題を見いだす。 (自己評価表) |
| 第五時 | 消費者をめぐる問題（2時間） <ul style="list-style-type: none"> ・DVD「100万円あったらどうする？」を視聴する。 ・悪徳商法とカードの種類、お金の価値についてまとめる。 ・クーリング・オフ制度が適用させる条件をまとめる。 ・内容証明郵便について理解する。 ・与えられた条件に当てはまる、契約解除通知書を作成する。 | ● | | ● | <ul style="list-style-type: none"> ● お金の価値や貯蓄が社会で果たす役割について理解している。 (ワークシート・発言) ● 悪徳商法から身を守る方法やカードの種類について理解している。 (ワークシート・発言) ● クーリング・オフが適用される条件について理解している。 (ワークシート) ● 内容証明郵便について理解している。 (ワークシート) ● 与えられた条件に当てはまる契約解除通知書を作成することができる。 (ワークシート) |
| 第六時 | 消費生活のまとめ（2時間） <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活の課題に対する取組（実践状況）について発表する。 ・消費生活を通してフローチャート式自己評価をする。 | | ● | ● | <ul style="list-style-type: none"> ● 消費生活の学習内容を理解し、発表している。 (観察) ● 消費生活の課題を解決している。 (ワークシート、自己評価票) |

(5) 本時（全8時間中の1時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 消費生活の課題に気付くことができる。
- (イ) フリーターと正社員の違いを理解し、自分の将来について考えることができる。

イ 本時の展開

| 過程 | 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・方法 (ア～エ) |
|-----|-----|--|---|------------------|
| 導入 | 3分 | ・本時の学習を理解する。 | ・本時は消費生活について学習することを説明する。 | ア（観察） |
| 展開 | 10分 | ・4～5人のグループで金利計算の問題に取り組み、2社の広告を見ながらどちらの消費者金融でお金を借りたら良いか考える。 〈A社の広告〉…10万円を日歩8銭の利息で貸し出します。 〈B社の広告〉…10万円を年18%の半年複利で貸し出します。 | ・4～5人のグループで金利計算にチャレンジさせる（10分間）。時間制限を設け、ゲーム感覚で問題に取り組みさせる。机間指導を行い作業が進んでいないグループにはアドバイスを行う。生徒の様子を確認し、時間が足りない場合、時間を延長する。 | ア（授業の取組、ワークシート） |
| | 10分 | ・答えを確認する。 | ・答えを確認させる活動を通して、日常生活の中に理解できていない消費生活の問題があることに気付かせる。 | イ（ワークシート） |
| | 7分 | 消費生活チェックシートに記入し、自己の消費生活における課題に気付く。 | | |
| 展開 | 7分 | ・消費生活に関するチェックシートを行い、自らの課題を確認し、チェックシートを提出する。 | ・消費生活チェックシートを配布し、日常生活の中の課題に気付かせ、チェックシートを回収する。 | ア（観察、ワークシート） |
| | 18分 | フリーターと正社員の違いを理解する。 | | |
| まとめ | 2分 | ・フリーターについて知っていることをまとめる。 | ・フリーターについて知っていることをまとめさせる。（給料や年齢など） | イ（ワークシート） |
| | | ・フリーターと正社員の違いについて考える。 | ・ICT機器を使い、フリーターと正社員の違いについて説明する。 | イ（ワークシート） |
| まとめ | 2分 | ・次時の学習活動について理解する。 | ・次時も続けて授業を行うことを伝える。 | ア（観察） |

(6) 本時の振り返り

消費生活の導入として、消費者金融からお金を借りることを前提として、借りる際の金利計算を行わせた。あえて、導入において難しい問題を考えさせることにより、経済用語等、社会に出る前に理解しておかなければいけないことが多くあることに気付かせることとした。

金利の計算は、教師がヒントを与えることにより、問題を解くことができたグループもあったが、制限時間内に問題を解くことができないグループもあった。解説をすると、きちんとメモをとり理解しようとする生徒の姿が見られた。制限時間 10 分という限られた時間の中で、グループワークをさせることにより、計算が苦手な生徒も諦めずに問題に取り組むことができた。また、グループで話し合うことで、生徒の理解度が深まった。

(7) 成果と課題

ア 生徒が課題を見いだすためのチェックシートの活用

生徒が消費生活に関する生活課題を見いだすために消費生活チェックシートを作成し、取り組ませ、各自の生活課題に気付かせることとした。設問は、生徒がこれからの授業で解決を図ることができるものとした。

生徒一人一人の課題の内容は様々であり、普段の生活を振り返り具体的に自分の生活課題を整理できた生徒もいれば、一言しか言葉を書けない生徒、課題を見付けるまでに時間のかかる生徒もいるため、課題の整理がしやすいよう、チェックシートを工夫する必要がある。

【消費生活CHECKシート】

| | | | |
|----|--|------------|--------|
| 1 | 自宅で自分の仕事（家事）が決まっている | はい（ いいえ | ） |
| 2 | 自分の将来の職業や進路を考えている。 | はい（ いいえ | ） |
| 3 | 自分の携帯電話にかかる費用を知っている。 | はい（ いいえ | 円） |
| 4 | 携帯料金を誰が支払っているか知っている。 | | はい・いいえ |
| 5 | お小遣い帳をつけたり、レシート帳をつけたりして、 自分のお金の管理をしている。 | | はい・いいえ |
| 6 | 自分の地域のごみの分別方法を知っている。 | | はい・いいえ |
| 7 | 省エネのために実践していることがある。 | | はい・いいえ |
| 8 | 高卒と大卒の初任給が違うということを知っている。 | | はい・いいえ |
| 9 | 一人暮らしをするにはいくら必要か知っている。 | | はい・いいえ |
| 10 | クレジットカードとキャッシュカードの違いが分かる。 | | はい・いいえ |
| 11 | クーリング・オフは契約後何日まで適用されるのか知っている。 | | はい・いいえ |
| 12 | 悪徳商法（悪質商法）にあった際の対応の仕方を知っている。 | | はい・いいえ |
| Q | 自分の消費生活における課題は何だろう？ | | |
| | | | |

イ 授業導入時に課題意識をもたせ、生徒の学習意欲を高める工夫

単元の導入時に、各自の生活課題に気付かせることにより、生徒の学習意欲を高めることができた。

単元を通じた学習への取組を自己評価させた結果、21人中7人が学習意欲をもち授業に取り組み、課題を解決するために必要な知識を学んだと答えた。9人が実際に自分の生活で実践することができたと答えた。

【実践できたこと】

- ・家庭での仕事を決めた（風呂掃除、布団敷き）。
- ・スマートフォンのゲームでお金を使わないようにした。
- ・自分の将来について真剣に考えた。
- ・手帳を使ってお金を管理するようになった。
- ・その時の感情で物を購入しないように気を付けた。
- ・省エネのために暖房の温度を20度とした。 など

VI 研究の成果

1 単元における生活課題を見いださせてみて

これから学習する単元において課題意識をもって意欲的に取り組み、課題解決のための実践力を高めるために、家庭生活や学校生活を振り返らせるチェックシートに取り組みさせた。チェック項目に沿って、普段の生活を振り返らせることにより、生徒に課題意識をもたせることができた。生徒一人一人の課題意識は異なるが、授業を通して課題解決を図ったり、グループでの話し合いや発表学習を通して課題解決のヒントを見いだしたりするなど、その後の授業においても生徒が課題解決を図ることができるよう授業を展開した。

課題意識をもって授業に取り組みさせることは、到達目標を意識して学習することとなり、そのことにより、ワークシート等の記述内容も自分で課題解決のために取り組んだことを、多くの生徒が丁寧に記述するようになったと考える。

今回は、いつまでに課題解決に向けて取り組むのか、課題解決の時間の目安を授業時に教師が示すなどしたが、授業計画と合わせて自己の生活課題の解決に向けて、生徒自身にどのようにしていつまでに解決していくのか等を記入させたり、生徒が日常生活の中で課題を実践しやすいようにイメージをもたせたりすることも必要であると感じた。

2 発表学習や話し合い学習を実践してみて

発表学習や話し合い学習を取り入れることで、自己の生活課題の解決のために実践したことを、自分で整理しながら取組を振り返ることになった。発表したり他者に質問したりすることに慣れていない生徒は、緊張を伴う授業となったが、活動が終われば達成感を感じ、「もっといろいろ調べれば良かった。」とか「今度発表する時は、発表のための準備をしっかりしたい。」など、意欲的な感想も見られるなど、発表学習による学習効果も実感できた。

3 フローチャート式自己評価の取組について

本研究において、フローチャート式自己評価表を作成した。自分の生活課題を発見することができたかどうか、家庭生活で実践したりまとめたりしことを発表することができたかどうか、発表学習から得られたものは何か、新たな生活課題は何か等について振り返らせることで、生徒が取り組んだことを確認して、次の学習に取り組んだり、目標とすべきことを明確にしたす

るために効果があった。

日常生活において生活の課題を見だし、計画を立てて、課題解決のために実践し、実践したことを評価する学習サイクルは、ホームプロジェクトの学習において実践しているが、日頃の授業においても意識して取り組むことで、ホームプロジェクトの取組の充実を図るとともに、授業への関心や学習意欲を高め、課題意識をもって授業に取り組ませることができるといえる。

4 検証授業による成果

それぞれの実践事例における成果は、以下の通りである。

実践事例1の食生活における取組では、フードデザインの授業において初めて発表学習を取り入れた。生徒の実態を踏まえ、一汁三菜の配膳図については料理雑誌を活用するなどして、見てわかりやすく視覚的に理解しやすいように工夫した。どの生徒も発表できるように発表原稿を作成するなどして準備させた。生徒は緊張もしてはいたが、一生懸命聞いている人が分かるように実践したことを伝え、発表を聞く生徒も真剣に聞くという姿勢を作ることができた。

実践事例2の保育体験学習に関する取組では、学習目標と生徒の課題の解決を図るために記録用紙を見直し、指導計画に合わせて記述させる内容を工夫することで生徒の思考力・判断力・表現力等を高めることができた。

実践事例3の消費生活に関する学習では、単元の始めに現状の課題を見いださせるためのチェックシートに取り組みさせた。生徒の中には、「知っているようで知らないことが多いことに驚いた。その中でも、お金に関することが一番の課題だと感じた。自分自身でしっかりお金を管理できるようになりたい。」と記述した生徒もいた。課題意識をもたせることにより、受け身で授業に取り組む生徒が減り、主体的に考え自己の課題を解決しようとする生徒の姿が見られ、生徒の学習に対する意欲を引き出すことができることが分かった。

Ⅶ 今後の課題

1 生徒の実践力を育む指導について

単元により、食生活など生徒の実践の様子が分かりやすいものと、消費生活や生活設計、子供や高齢者など人と関わる学習内容に関する生活課題の実践は、全ての生徒が実践できるとは限らないため、生徒の実態を踏まえて、実践の方法を検討し生徒を支援する必要がある。

生活課題の実践は、年間指導計画において、継続して実践・習慣化させるなど、繰り返し実践させることで生徒の実践力を高めることができると考える。

2 生徒の実践内容を生かした評価について

生徒一人一人の生活課題が異なることから、生徒の実践の取組も個々に異なる。評価にあたっては、個々の生徒の実態を踏まえて、評価規準を明確にして評価する必要がある。

3 評価の参考となる自己評価について

生徒によっては自分の評価を過大評価することもある。今回のように生活課題の実践に対する自己評価においては、「このようなことが分かるようになった。」「これができるようになった。」などを明確にして自己評価をさせる必要がある。学習目標に応じて自己評価から何を求めるのか、教師が十分に検討した上で自己評価を行うようにする。

26年度 教育研究員名簿

高等学校・家庭

| 学校名 | 課程 | 職名 | 氏名 |
|-----------|-----|------|--------|
| 都立江北高等学校 | 全日制 | 教諭 | 宮島 陽子 |
| 都立六本木高等学校 | 定時制 | 主任教諭 | 畑 和美 |
| 都立成瀬高等学校 | 全日制 | 主任教諭 | ◎阿川 浩美 |

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事 金澤 正美

平成26年度
教育研究員研究報告書

高等学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社